

仕事人秘録

川崎氏は今年7月、かつて勤めていた東芝の音響事業部の同窓会に参加した。

約30年前の交通事故がきっかけとなり、デザイナーとして独立する際、東芝の多くの上司や先輩にあいさつできないまま退職したのが心残りだった。

久しぶりに会った人たちからは「頑張ってるな」「テレビでみたぞ」と声をかけられ、心が温まった。音響事業部は時代の流れの中で閉鎖された部門だが、巣立った人材は社内外で活躍している。

昨春秋には東芝の幹部講習会の講師に呼ばれた。西室泰三相談役から「君と同

未来の予感を形に

⑬

工業デザイナー

川崎 和男氏



妻の浩子さんは川崎氏の事務所の社長も務める

デザインの力、海を越えて

期だぞ」と佐々木則夫社長を紹介された。妻には「独立してはなかったら、私が社長のイスに座っていた」と伝えた。退職して長い年月が経ったが、古巣の人々との交流は財産だと思う。ちなみに西室さんが愛用しているステッキとメガネは私がデザインした。今年6月にもうれしいこ

とがあった。警察幹部を養成する警察大学の講師をやらせてもらったのだ。警察官の息子に生まれた私にとってこれほど榮譽なことはない。今は亡き父は「警察大には選ばれた先生だけが来て」と子どものころの私に話っていた。

業への助言など多忙な日々を過ごす中、妻の浩子さんの支えで成り立っている。デザイナーでもある妻には、私のデザイン事務所の社長をしてもらっている。名古屋市立大学に在職していた時の助手で、年齢は私よりかなり年下だが、今と

なつては一番頭があがらない存在だ。大阪大学に赴任してから4年になる。今、教育の現場で力を入れているのは海をデザインだ。阪大、大阪府立大学、神戸大学の「関西海事教育アライアンス」という協定により、デザイン戦略論を教えている。学生からは洋上に構築するメ

ガフロートなどのデザイン提案が出てくる。日本は海を通じ、外に向かって発展してきた貿易立国だ。ところが最近の内向きで元気がない日本人の姿が目立つ。私は日本が国連の常任理事国になる必要があると思っている。それぐ

は国際社会で存在感を示せない。資源に乏しい国だからこそ、貿易立国の志を忘

れてはいけない。

貿易の競争力の源は製造業にある。製品の質や価値を高める工業デザインの力をこれからも多くの人々に感じ取ってもらいたいと願っている。

(聞き手は小暮晃一)

|| この項おわり

次回はフラオグルッペ社長 沖幸子氏